

【No18】【3】

🔍 全体のテーマ

この一節は、人類に特有の能力である「言語」と、その進化的・文化的な意義に焦点を当てている。言語の登場によって、人間は目の前にない事物や出来事について他者に教えることが可能になった。これは他の高等動物には見られない特異な能力であり、過去の共有・未来の計画・抽象的概念の議論を可能にした点が強調されている。

🔍 全訳

言語こそが、初めて人類の祖先に、目の前に存在しない物事や出来事について、子どもを含む他者に教えることを可能にしたのだった。今日生きている他の知的な動物にも、複雑な脳や精巧なコミュニケーション体系を持つものはいるが、彼らには(少なくとも私たちの知る限り)それはできない。チンパンジーや他の類人猿は、アメリカ手話(ASL)の多くの記号を教えられることがある。彼らは 300 語以上を習得し、それらを新しい文脈や、トレーナーだけでなく仲間同士の間でも使うことができる。しかし彼らは、進化の過程で、目の前にない事柄について語り、過去の出来事を共有し、遠い未来を計画し、そして何よりもアイデアを議論して、グループ全体に蓄積された知恵を共有するという、人間特有の能力を獲得しなかった。

🔍 第1文

It was language that, for the first time, enabled our ancestors to teach others, including their children, about objects and events that were not actually present.

言語こそが、初めて人類の祖先に、目の前に存在しない物事や出来事について、子どもを含む他者に教えることを可能にしたのだった。

■ 解説ポイント:

- ✔ It was A that B: 強調構文。「BしたのはAだった」・この文では「言語」が強調されており、A + B(language + enabled...)で1つの文が完成する点に注意。
- ✔ for the first time: 時を表す副詞句。「初めて」
- ✔ enable A to V: 「AがVすることを可能にする」
- ✔ including ~: 前置詞(~を含めて)。前置詞として使われる-ing形には including, regarding, concerning, following, during などがある。
- ✔ that were not actually present: 関係代名詞 that が先行詞 objects and events を修飾。「実際には存在しなかった」
- ✔ ancestors: 語源はラテン語「ante(前)」+「cedere(行く)」→「前に行った人」。同系語に ancestor, ancestral, ancestry などがある。

🔍 第2文

There are other intelligent animals living today with complex brains and elaborate communication systems, but they cannot, so far as we know, do that.
今日生きている他の知的な動物にも、複雑な脳や精巧なコミュニケーション体系を持つものはいらるが、彼らには(少なくとも私たちの知る限り)それはできない。

■ 解説ポイント:

- ✔ other:「人間以外の」動物に対する「他の」。前文の内容を受けている。
 - ✔ intelligent:「知的な」。語源は inter(間に) + legere(選ぶ)→「選び取る能力がある」→知性を持つ。・intellectual(知的な・理論的な)よりも、行動的・応用的な「頭の良さ」に近い。
 - ✔ living today with complex brains and elaborate communication systems:現在分詞 living today から始まる形容詞句で animals を修飾。and は with 以下の2つの要素「complex brains」と「elaborate communication systems」を並列。
 - ✔ elaborate:形容詞「精巧な」。語源はラテン語 elaboratus(入念に作られた)→ ex(外)+labor(労働)
 - ✔ so far as we know:挿入句。「私たちの知る限りでは」
 - ✔ do that:that は第1文の「目の前にないものについて他者に教える」行為を指す。
 - ✔ apes と monkeys の違い:apes(類人猿)は尾がなく、大型(例:チンパンジー、ゴリラ)。monkeys(サル)は尾があり、比較的小型。
-

🔍 第3文

Chimpanzees and other apes can be taught many of the signs of American Sign Language, ASL.

チンパンジーや他の類人猿は、アメリカ手話(ASL)の多くの記号を教えられることがある。

■ 解説ポイント:

- ✔ can be taught:受動態。「教えられることができる」。teach O1 O2(O1にO2を教える)の受動態。
 - ✔ many of the signs of ASL:「ASLの記号の多く」
-

🔍 第4文

They have acquired three hundred or more, and can use them in new contexts and with each other as well as their trainers.

彼らは300語以上を習得し、それらを新しい文脈や、トレーナーだけでなく仲間同士の間でも使

うことができる。

■ 解説ポイント:

✓ have acquired: 現在完了。「習得してきた」。acquire は「長期的努力により獲得する・身につける」。・get は「物理的に手に入れる」「瞬間的取得」に近く、口語的。・obtain は「努力や手続きを経て手に入れる」。文語的・やや硬めの印象。

✓ in new contexts and with each other as well as their trainers: 前置詞 in と with が並列構造を形成。as well as は「～だけでなく～も」。with each other(仲間同士) と with their trainers(トレーナー)を並列。

✓ them: 先行詞は「300 語以上の記号(signs)」

✓ they: 主語の「chimpanzees and other apes」を指す。

✓ and は 2 つの動詞句「have acquired ～」と「can use ～」を接続。

🔍 第 5 文

But they did not, during their evolution, develop the uniquely human ability to talk about that which is not present, share events of the distant past, plan for the far-off future, and, most important, discuss ideas, exchanging them to share the accumulated wisdom of an entire group.

しかし彼らは、進化の過程で、目の前にない事柄について語り、過去の出来事を共有し、遠い未来を計画し、そして何よりも、アイデアを議論して、グループ全体に蓄積された知恵を共有するという、人間特有の能力を獲得しなかった。

■ 解説ポイント:

✓ they: 主語は「chimpanzees and other apes」

✓ during their evolution: 副詞句(挿入句)

✓ uniquely human: 「人間特有の」。unique(唯一の) + -ly(副詞)

✓ to talk about ～, share ～, plan ～, and discuss ～: to 不定詞の並列。to は最初に 1 度だけ置かれ、4 つの動作が並列される。

✓ and, most important, discuss ideas: 文接続の and のあとに挿入句(most important)が入り、D 項目を導いている。A, B, C, and (M) D の形。

✓ exchanging them to share ～: 分詞構文。「それらを交換し、その結果として共有する」・them の指示内容は ideas(アイデア)

✓ the accumulated wisdom: 蓄積された知恵。accumulate = ad(～へ) + cumulare(積み上げる)

✓ of an entire group: 「グループ全体にわたる」。・entire は「部分の欠けない全体」(完全

性を強調)・whole は「一つにまとまった全体」(全体像を包括的に指す)

[重要]

✔ 1. what の説明

「what」は、「～すること」「～するもの」という意味で、先行詞を含んだ関係詞です。つまり、「the thing that(which)～」がひとつの単語になった形です。たとえば:

What he said was true. (彼が言ったことは本当だった)

この文の「what he said」は、「he said(彼が言った)」という情報を受けて、「その内容=こと」を指しています。文全体では、「～は本当だった」という主語になっています。「what」が一番よく使われる自然な言い方で、会話でも文章でも広く使われます。

✔ 2. that which の説明

「that which」は、「what」と同じ意味ですが、that(それ)+which(～する)」という2語に分かれた形です。文の中では、「that」が先行詞、「which」がそれを説明する関係詞節を導きます。たとえば:

That which he said was true. (彼が言ったことは本当だった)

意味は「what he said」とまったく同じですが、こちらは少し堅くて、文語的・形式的な言い方になります。入試や論文、格調高い文章で見られる表現です。

✔ 3. the thing which の説明

「the thing which」も、「～するもの」「～であること」という意味を表しますが、今度は先行詞が「the thing(そのもの)」とはっきり書かれているのが特徴です。そこに関係詞「which」が続いて、その「もの」を説明します。

たとえば:

The thing which he said was true. (彼が言ったその内容は本当だった)

この言い方は、「what」よりもやや説明的で、「そのこと」や「そのもの」を強調したいときに使われます。また、単数形「the thing」だけでなく、「the things which ～(～するものたち)」という複数形でも使えます。

✔ 違いのまとめ(言葉で)

- 「what」は先行詞を含む関係詞で、最も自然でよく使われる形です。
- 「that which」は「what」と意味は同じですが、書き言葉で、文語的な表現です。
- 「the thing which」は、先行詞が明示されていて説明的。「そのもの」「そのこと」と強調したいときに使います。